

2022年7月4日

各位

三菱UFJ信託銀行株式会社

AI活用によるネガティブニュース記事ラベリングシステムの共同開発について

三菱UFJ信託銀行株式会社(東京都千代田区、取締役社長 ^{ながしま いちお}長島 巖、以下 当社)は、株式会社MILIZE(東京都港区、代表取締役社長 ^{たなか とおる}田中 徹、以下 MILIZE)と共同で、ニュースベンダー等、複数の情報ソースから配信される様々なビジネス関連情報に対し、自然言語処理技術のひとつである「BERTモデル」*1を用いて、特定の情報の抽出および優先順位付けを行う、ラベリングシステムを開発いたしました。従来、大量のビジネスニュースの中から投資意思決定に関わる特定情報の抽出、ならびにその分析・吟味に当たっては相応の時間を要していましたが、同システムの開発により、作業の効率化、所要時間の短縮等を見込んでおります。

*1 BERT モデル

2018年10月にGoogleが発表した自然言語処理モデル。容易なファインチューニングにより、活用したいデータに合わせたモデルの最適化を可能とした。

1. 背景

当社では、国内外のマーケットを対象とした市場運用業務において、投資の意思決定等にあたり多種多様な情報の収集、分析を行っております。その中でも、複数の情報ソースから配信される大量のビジネス関連情報の中から、投資判断に影響を与え得る重要なネガティブニュースを抽出し、分析・吟味するプロセスに関しては、従来その業務効率性の観点で課題認識を持っておりました。

MILIZEは、市場運用やリスク管理業務の高度化に強みを持つAIベンダーで、オルタナティブデータや自然言語処理を活用して、機関投資家や個人投資家における運用業務のDX化支援を行っています。

今般、当社は、MILIZEと共同で、投資関連情報の抽出および分析作業の効率化に資する新たなシステムを共同開発しました。本システムが実用化に至れば、当社の高い市場運用知見とMILIZEの優れた技術力により、効率的な業務体制が構築され、ネガティブニュース分析作業の大幅な負荷軽減と、市場運用業務における投資意思決定の際のデューデリジェンス・プロセスの円滑化が期待されます。

2. 本システムの概要

本システムでは、多様な情報ソースから日々配信されるビジネス関連情報がスクリーニングされ、そのうち、金融専門用語や特有な文脈を有するものに対して、機械学習モデルが、特定の企業や組織等の「投資・経済活動」に関連する記事、「アンチ・マネーロンダリング、経済制裁」に関連する記事等のネガティブニュースとしてラベリング・優先順位付けを行います。ラベリング結果は、ID取得者であれば、WEB画面上で確認可能です。

3. 今後の展望

当社とMILIZEは、市場運用業務におけるニュース分析、デューデリジェンス・プロセスの効率化に向けた新たな取り組みとして、今般共同開発したシステムの実務検証および実用化の検討を進めるとともに、今後も、先端技術の積極的な活用による業務効率化の推進に取り組んでまいります。